

Title	兵庫医科大学泌尿器科学教室における1982年の臨床統計
Author(s)	生駒, 文彦; 森, 義則; 島田, 憲次; 岡本, 新司; 川口, 理作; 木野田, 茂; 大西, 洋子; 仲地, 研吾; 田口, 恵造; 西崎, 伸也; 藤末, 洋; 松井, 孝之; 黒田, 治朗; 鹿子木, 基二
Citation	泌尿器科紀要 (1983), 29(9): 1127-1132
Issue Date	1983-09
URL	http://hdl.handle.net/2433/120235
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

兵庫医科大学泌尿器科学教室における 1982年の臨床統計

兵庫医科大学泌尿器科学教室（主任：生駒文彦教授）

生駒 文彦・森 義則・島田 憲次
岡本 新司・川口 理作・木野田 茂
大西 洋子・仲地 研吾・田口 恵造
西崎 伸也・藤末 洋・松井 孝之
黒田 治朗・鹿子木基二

CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS, INPATIENTS AND OPERATIONS IN 1982

Fumihiko IKOMA, Yoshinori MORI, Kenji SHIMADA,
Shinji OKAMOTO, Risaku KAWAGUCHI, Shigeru KINODA,
Yohko OHNISHI, Kengo NAKACHI, Keizo TAGUCHI,
Shinya NISHIZAKI, Hiroshi FUJISUE, Takayuki MATSUI,
Jiro KURODA and Mototsugu KANOKOGI

From the Department of Urology, Hyogo College of Medicine

(Director: Prof. F. Ikoma)

Statistical studies on 2,040 new outpatients, 575 inpatients and 570 operative procedures at our department in 1982 revealed the following. The most frequent diseases among the outpatients were urogenital infections followed by anomalies and tumors. Over half of the inpatients were pediatric patients and the major diseases among inpatients were hypospadias, vesicoureteral reflux, urolithiasis, congenital urethral stenosis and undescended testis. A total of 570 operations were performed on 531 patients, and the major five operations were hypospadias repair (79), optic internal urethrotomy (71), TUR-P (49), ureterocystoneostomy (33) and orchidopexy (32).

Key words: Clinical statistics, Urology

緒 言

1973年兵庫医科大学開設以来、当教室では一般泌尿器科に加え、小児泌尿器科を主題のひとつとして臨床診療および研究を続けている。今回われわれは1982年度の外来患者、入院患者および手術について臨床統計をおこなったので報告する。

外来患者統計

2,040名の新患患者について統計的観察をおこなった。性別では男子1,372名、女子668名であり、男女比は2.1:1である。年齢分布は Table 1 に示すごと

く、14歳以下の小児患者が740名と約1/3をしめた。疾患別では感染症557名(27.3%)、先天性異常301名(14.8%)、腫瘍207名(10.1%)、結石182名(8.9%)、外傷8例(0.4%)の順に多く、その他の症患は785名(38.5%)であった。尿路性器感染症(Table 2)では膀胱炎がもっとも多く、前立腺炎がそれについで。新患患者には尿路性器結核はみとめられなかった。尿路性器先天性異常(Table 3)では、停留睪丸、包茎、VUR、尿道下裂の順に多かった。尿路性器腫瘍(Table 4)では、前立腺肥大症を除けば膀胱腫瘍、前立腺癌、腎細胞癌の順であった。尿路結石(Table 5)では尿管結石がもっとも多く、ついで腎結石でこ

Table 1. 外来患者（新患）年齢分布

	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
0~4	198		43		241
5~9	235		111		346
10~14	121		32		153
15~19	32		21		53
20~29	115		74		189
30~39	116		79		195
40~49	112		81		193
50~59	159		97		256
60~69	139		72		211
70~79	123		50		173
80~89	21		7		28
90~99	1		1		2
計	1372		668		2040

Table 2. 尿路性器感染症（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
膿腎症	0	0	0	2	2
腎盂腎炎	6	13	16	23	58
膀胱炎	20	20	19	203	262
尿道炎	6	45	2	3	56
前立腺炎	0	103	0	0	103
亀頭包皮炎	27	9	0	0	36
副睾丸炎	6	36	0	0	40
計	65	224	37	231	557

Table 3. 尿路性器先天性異常（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎奇形	1	3	0	1	5
先天性尿管狭窄	1	0	0	0	1
VUR	29	2	22	1	54
尿管瘤	0	0	5	0	5
異所開口尿管	1	0	3	0	4
腎盂尿管移行部狭窄	11	1	1	2	15
尿管膀胱移行部狭窄	1	4	2	0	7
後部尿道弁	5	0	0	0	5
尿道リング狭窄	13	14	0	0	27
遠位部尿道狭窄	0	0	10	5	15
停留辜丸	62	3	0	0	65
包茎	46	12	0	0	58
尿道下裂	30	1	0	0	31
尿道上裂	1	0	0	0	1
女性半陰陽	0	0	2	0	2
鎖肛	4	0	2	0	6
計	205	40	47	9	301

の両者ではほとんどをしめた。尿路性器外傷（Table 6）はわずか8例しか経験しなかった。その他の疾患（Table 7）では夜尿症281名（13.8%）、原因不明の血尿64名（3.1%）、神経因性膀胱60名（2.9%）が多い疾患であった。

Table 4. 尿路性器腫瘍（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
後腹膜腫瘍	0	1	0	0	1
腎細胞癌	0	10	0	5	15
ウィルムス腫瘍	1	0	0	0	1
尿管腫瘍	0	1	0	0	1
膀胱腫瘍	0	25	1	4	30
尿道腫瘍	0	2	0	0	2
前立腺癌	0	23	0	0	23
前立腺肥大症	0	108	0	0	108
陰茎癌	0	5	0	0	5
辜丸腫瘍	0	5	0	0	5
尿道カルンケル	0	0	0	16	16
計	1	180	1	25	207

Table 5. 尿路結石（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎結石	2	33	1	21	57
腎尿管結石	0	3	0	5	8
尿管結石	0	74	0	33	107
膀胱結石	0	2	0	0	2
前立腺結石	0	8	0	0	8
計	2	120	1	59	182

Table 6. 尿路性器外傷（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎外傷	1	0	1	0	2
尿道外傷	0	2	0	0	2
辜丸外傷	2	1	0	0	3
陰茎外傷	0	1	0	0	1
計	3	4	1	0	8

入院患者統計

入院患者数は575名であり、再入院をふくめた延べ入院患者数では610名であった。性別では男子460名、女子115名と男女比は4.0:1であり、外来患者より男女比は高くなっている（Table 8）。年齢別では14歳以下の小児患者が305名と半数以上をしめた。

以下、各疾患を臓器別にかけて表に示す。

1. 腎疾患（Table 9）

腎結石17例（24%）、腎細胞癌16例（22%）、腎盂尿管移行部狭窄15例（21%）が多く、腎盂腎炎が10例であった。ウィルムス腫瘍の1例は、前年に手術した症例が化学療法のため入院したものであった。

2. 尿管疾患（Table 10）

VUR 49例（46%）、尿管結石33例（31%）が多かった。比較的まれとされる尿管瘤および異所開口尿管をそれぞれ5例経験した。

Table 7. そのほかの疾患(外来)

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
夜尿症	205	2	71	3	281
神経因性膀胱	4	31	5	20	60
神経性頻尿	6	9	0	10	25
急迫性尿失禁	0	0	0	12	12
特発性腎出血	0	4	0	4	8
原因不明の血尿	32	6	22	4	64
糸球体腎炎	6	3	7	2	18
蛋白尿	0	1	0	2	3
乳糜尿	0	2	0	0	2
遊走腎	0	0	0	9	9
男性不妊	0	15	0	0	15
インポテンツ	0	11	0	0	11
睾丸機能不全	0	4	0	0	4
尖圭コンジローム	0	4	0	0	4
持続性勃起症	0	1	0	0	1
パイロニー氏病	0	3	0	0	3
血精液症	0	3	0	0	3
陰嚢水腫	19	7	0	0	26
精液瘤	0	4	0	0	4
外尿道口嚢胞	2	0	0	0	2
腎嚢胞	0	4	0	3	7
尿管狭窄	0	3	0	12	15
膀胱頸部硬化症	0	28	0	0	28
尿道狭窄	1	26	0	0	27
尿道憩室	0	0	0	1	1
尿道脱	0	0	2	0	2
膀胱膿瘍	0	0	0	1	1
二次性副甲状腺機能亢進症	0	4	0	4	8
泌尿器科の正常	35	43	10	53	141
計	310	218	117	140	785

Table 8. 入院患者年齢分布

年齢(歳)	男		計
	男	女	
0～4	129	19	148
5～9	92	30	122
10～14	24	11	35
15～19	8	1	9
20～29	18	6	24
30～39	13	7	20
40～49	23	12	35
50～59	33	12	45
60～69	43	10	53
70～79	62	7	69
80～89	15	0	15
計	460	115	575

3. 膀胱疾患 (Table 11)

膀胱腫瘍37例(42%)、膀胱頸部狭窄22例(25%)、神経因性膀胱15例(17%)が多かった。膀胱腫瘍のうち1例は女兒にみられた膀胱横紋筋肉腫であった。重複膀胱の1例は第31回泌尿器科中部連合総会にて報告

Table 9. 腎疾患(入院)

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎細胞癌	0	13	0	3	16
ウィルムス腫瘍	1	0	0	0	1
腎盂腫瘍	0	1	0	0	1
腎結石	2	7	0	8	17
腎嚢胞	0	3	0	0	3
腎盂腎炎	3	4	2	1	10
膿腎症	0	0	0	1	1
特発性腎出血	0	1	0	2	3
腎性高血圧	0	1	0	0	1
腎動静脈奇形	0	0	0	1	1
糸球体腎炎	2	0	0	0	2
腎外傷	1	0	0	0	1
腎盂尿管移行部狭窄	14	0	0	1	15
計	23	30	2	17	72

Table 10. 尿管疾患(入院)

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿管腫瘍	0	1	0	0	1
尿管結石	1	17	0	15	33
尿管狭窄	0	1	0	5	6
VUR	19	1	26	3	49
尿管瘤	0	0	5	0	5
異所開口尿管	1	0	4	0	5
巨大尿管	1	3	2	0	6
先天性尿管狭窄	1	0	0	0	1
計	23	23	37	23	106

Table 11. 膀胱疾患(入院)

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
膀胱腫瘍	0	33	1	3	37
二次性膀胱腫瘍	0	0	0	2	2
膀胱結石	0	3	0	1	4
膀胱膿瘍	0	0	0	4	4
萎縮膀胱	0	0	0	2	2
膀胱憩室	2	0	0	0	2
重複膀胱	0	0	1	0	1
神経因性膀胱	4	1	8	2	15
膀胱頸部狭窄	0	22	0	0	22
計	6	59	10	14	89

した症例である。

4. 尿道疾患 (Table 12)

男子の先天性球部尿道リング状狭窄52例(41%)、女子の先天性遠位部尿道狭窄21例(16%)、後天性尿道狭窄20例(15%)が多かった。われわれは、排尿時膀胱尿道レ線(MCU)をルーチンの検査法として採用しており、尿道リング状狭窄、遠位部尿道狭窄、後部尿道弁、前部尿道弁のような小児の器質的下部尿路通過障害を多数経験することができた。

Table 12. 尿道疾患 (入院)

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿道腫瘍	0	2	0	0	2
尿道カルンケル	0	0	0	1	1
尿道リング狭窄	40	12	0	0	52
遠位部尿道狭窄	0	0	20	1	21
後部尿道弁	15	1	0	0	16
前部尿道弁	2	0	0	0	2
後天性尿道狭窄	3	17	0	0	20
外尿道口狭窄	1	1	0	0	2
尿道形成不全	1	0	0	0	1
尿道脱	0	0	3	1	4
尿道憩室	0	0	0	1	1
尿道皮膚瘻	1	1	0	0	2
尿道直腸瘻	0	1	0	0	1
外尿道口嚢胞	2	0	0	0	2
尿道外傷	0	1	0	0	1
計	65	36	23	4	128

Table 13. 前立腺疾患 (入院)

疾患名	男		計
	小児	成人	
前立腺肥大症	0	40	40
前立腺癌	0	17	17
前立腺結石	0	2	2
計	0	59	59

5. 前立腺疾患 (Table 13)

前立腺肥大症が40例(68%)がほとんどであったが、前立腺癌を17例経験した。

6. 陰茎・陰囊疾患 (Table 14)

尿道下裂77例(48%)、停留辜丸37例(23%)が多

Table 14. 陰茎・陰囊疾患 (入院)

疾患名	男		計
	小児	成人	
尿道下裂	73	4	77
尿道上裂	2	0	2
嵌頓包茎	2	1	3
完全包茎	3	0	3
陰茎癌	0	6	6
尖圭コンジローム	0	2	2
持続性勃起症	0	1	1
陰茎剥皮症	0	1	1
陰茎前位陰囊	4	1	5
辜丸腫瘍	0	3	3
停留辜丸	37	0	37
異所性辜丸	1	0	1
辜丸低形成	2	0	2
陰囊水腫	5	4	9
精索静脈瘤	3	0	3
精液瘤	0	2	2
副辜丸炎	1	3	4
計	133	27	160

Table 15. そのほかの疾患 (入院)

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
後腹膜腫瘍	0	2	0	0	2
膀胱後部腫瘍	0	1	0	0	1
男性半陰陽	2	0	0	0	2
女性半陰陽	0	0	1	0	1
真性半陰陽	1	0	1	0	2
男子小子宮	1	1	0	0	2
プルン・ベリー症候群	1	0	0	0	1
二次性副甲状腺機能亢進症	0	3	0	2	5
シスチン尿症	1	1	0	1	3
鎖肛術後	5	0	3	0	8
計	11	8	5	3	27

かった。陰茎癌6例、陰茎前位陰囊5例を経験した。

7. その他の疾患 (Table 15)

二次性副甲状腺機能亢進症の5例は、慢性腎不全で血液透析をうけている患者で、副甲状腺全摘除術のため紹介されてきた患者である。後腹膜腫瘍の2例は手術を施行し、脂肪肉腫と平滑筋肉腫であった。膀胱後部腫瘍の1例は平滑筋肉腫の再発のため化学療法目的で入院したものであった。

手術統計

531症例に568回の手術をおこなった。この中には外来でおこなった小手術は含まれていない。568回のうち297回(52%)は小児患者に対する手術であり、小児泌尿器科手術が全体の半数以上をしめた。尿道下裂修正手術(索切除術、尿道形成術、外尿道口形成術)79回、直視下内尿道切開71回、TUR-P 49回、尿管膀胱新吻合術33回、辜丸固定術32回がおもな手術であった。

以下、臓器別に手術名を示す。

1. 腎の手術 (Table 16)

60回中、腎摘除術18回、腎盂形成術13回が多かった。腎摘除術はそのほとんどが成人では腎細胞癌、小児では異所開口尿管にともなう異形成腎に対してなされたものである。

Table 16. 腎の手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎切石術	0	3	0	3	6
腎瘻術	2	1	0	3	6
腎盂切石術	2	3	0	2	7
腎部分切除術	0	2	0	0	2
腎摘除術	0	12	1	5	18
腎尿管摘除術	1	2	3	0	6
腎盂形成術	13	0	0	0	13
腎生検	2	0	0	0	2
計	20	23	4	13	60

Table 17. 尿管の手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿管切石術	1	14	0	7	22
尿管皮膚瘻術	0	5	0	1	6
尿管膀胱新吻合術	9	4	16	1	33
尿管尿管吻合術	2	0	0	0	2
尿管剝離術	2	0	0	0	2
尿管瘤摘除術	0	0	5	0	5
リング尿管皮膚瘻術	1	0	1	0	2
リング尿管皮膚瘻閉鎖術	4	0	0	0	4
回腸導管造設術	0	4	0	3	7
結腸導管造設術	0	0	1	0	1
尿管回腸膀胱吻合術	1	0	0	0	1
計	20	27	23	15	85

2. 尿管の手術 (Table 17)

85回中尿管膀胱新吻合術33回, 尿管切石術22回が多かった。尿管膀胱新吻合術の術式としては, suprahiatal- and infrahiatal combined method をおもにおこなっている。回腸導管造設術を7回, 結腸導管造設術を1回おこなった。リング尿管皮膚瘻術は小児の高度水腎水尿管症に対する一時的尿路変更術としてわれわれは好んでおこなっているが, これを2回, その閉鎖術を4回おこなった。

3. 膀胱の手術 (Table 18)

73回のうち, TUR-Bt 28回, TUR-Bn 22回であった。膀胱全摘除術は7回施行した。

Table 18. 膀胱の手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
膀胱瘻術	0	2	0	0	2
TUR-b.t.	0	28	0	0	28
TU-biopsy	0	5	1	1	7
TUR-b.n.	0	22	0	0	22
TUR-scar	0	0	0	1	1
TUR-尿管瘤	0	0	1	0	1
膀胱全摘除術	0	5	1	1	7
膀胱部分切除術	0	0	0	1	1
膀胱碎石術	0	3	0	0	3
膀胱憩室摘除術	1	0	0	0	1
計	1	65	3	4	73

4. 尿道の手術 (Table 19)

先天性および後天性尿道狭窄に対する直視下内尿道切開術が71回ともっとも多かった。女子遠位部尿道狭窄に対する外尿道口形成術は20回施行した。尿道弁に対するTURは13回施行した。

5. 前立腺の手術 (Table 20)

前立腺に対する手術のほとんどはTUR-Pであり49回施行し, 恥骨後前立腺摘除術は2回のみであっ

Table 19. 尿道の手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
外尿道口切開術	1	1	0	0	2
外尿道口形成術	0	0	20	0	20
直視下内尿道切開術	43	28	0	0	71
内尿道切開術	5	1	0	0	6
TUR-valve	12	1	0	0	12
尿道摘除術	0	1	0	0	1
尿道皮膚瘻閉鎖術	1	1	0	0	2
尿道直腸瘻閉鎖術	0	1	0	0	1
尿道脱摘除術	0	0	3	1	4
尿道憩室摘除術	0	0	1	1	2
尿道形成術	3	1	0	0	4
計	65	35	24	2	126

Table 20. 前立腺の手術

術名	男		計
	小児	成人	
TUR-P	0	49	49
恥骨後前立腺摘除術	0	2	2
前立腺全摘除術	0	1	1
計	0	52	52

Table 21. 陰囊・陰囊内容の手術

術名	男		計
	小児	成人	
陰囊水腫摘除術	3	3	6
精索静脈高位結紮術	3	0	3
除辜術(一側)	7	1	8
除辜術(両側)	0	8	8
辜丸固定術	32	0	32
辜丸自家移植術	1	0	1
試験的陰囊切開術	1	0	1
陰囊形成術	4	1	5
計	51	13	64

た。

6. 陰囊・陰囊内容の手術 (Table 21)

辜丸固定術32回ともっとも多かったが, 腹部停留辜丸に対する顕微鏡手術による辜丸自家移植術を1回おこなった。陰茎前位陰囊に対する陰囊形成術を5回お

Table 22. 陰茎の手術

術名	男		計
	小児	成人	
包皮背面切開術	5	1	6
陰茎皮膚形成術	4	0	4
陰茎切断術	0	3	3
尖圭コンジローム切除術	0	1	1
索切除術(尿道下裂)	36	0	36
尿道形成術(尿道下裂)	34	4	38
外尿道口形成術(尿道下裂)	3	2	5
caverno-spongiosum shunt	0	1	1
計	82	12	94

こなつた。

7. 陰茎の手術 (Table 22)

尿道下裂に対する手術がもっとも多く、索切除術36回、尿道形成術38回であった。持続性勃起症に対する caverno-spongiosum shunt を1回おこなつた。

Table 23. そのほかの手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
副甲状腺亜全摘除術	0	3	0	2	5
後腹膜リンパ節廓清術	0	3	0	0	3
骨盤内リンパ節廓清術	0	1	0	0	1
後腹膜腫瘍摘除術	0	2	0	0	2
試験開腹術	1	0	0	0	1
女子外陰部形成術	0	0	2	0	2
男子小子宮摘除術	1	1	0	0	2
計	2	10	2	2	16

8. その他の手術 (Table 23)

二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺亜全摘除術5回、睾丸腫瘍の後腹膜リンパ節廓清術3回を施行した。女子外陰部形成術を2回、大きな男子小子宮の摘除術を2回おこなつた。

結 語

兵庫医科大学泌尿器科における1982年度の外来・入院患者と手術に関する統計をおこない、次の結果を得た。

1) 外来新患者数は2,040名で、男子が1,372名、女子が668名であった。おもな疾患は、尿路性器感染症であり、それについて先天性異常、腫瘍であった。

2) 入院患者は575名であり、男子460名、女子115名であった。小児患者が305名と過半数をしめた。おもな疾患は、尿道下裂、VUR、尿路結石、先天性尿道狭窄、停留睾丸であった。

3) 手術は531症例に570回施行した。小児泌尿器手術が297回と過半数をしめた。おもな手術は、尿道下裂修正手術、直視下内尿道切開術、TUR-P、尿管膀胱新吻合術、睾丸固定術であった。

本論文の要旨は第102回日本泌尿器科学会関西地方会(1983年2月26日、於橿原市)にて発表した。

(1983年3月17日受付)